神戸市外国語大学創立70周年 〝行動する国際人〟を育てる

神戸市長　久元 喜造 さん　　公立大学法人 神戸市外国語大学 理事長・学長　船山 仲他 さん

少数精鋭を掲げる神戸市外国語大学。グローバル化が進む時流の中で、神戸市が外国語大学をもつ意味について、久元神戸市長と船山学長にお話しいただいた。

久元 喜造（ひさもと きぞう）

神戸市長

1954年、神戸市兵庫区生まれ。1976年、東京大学法学部を卒業し、旧自治省入省。札幌市財政局長、総務省自治行政局行政課長、同省大臣官房審議官（地方行政・地方公務員制度、選挙担当）、同省自治行政局選挙部長などを歴任。2008年、同省自治行政局長。2012年、神戸市副市長。2013年11月に第16代神戸市長に就任

異文化コミュニケーションの支えとして学ぶ外国語

―70年前、神戸市の教育機関として創立された経緯は？

久元　1946年2月15日、臨時市会で市立外事専門学校設立が提案されています。その前年、神戸は大空襲を受け焼け野原になり、ひどい食糧難と極めて不安定な社会情勢という大混乱の中にもかかわらず、このような提案がなされたのは、「国際的な人材を育成しよう」という当時のリーダーたちの強い意思の表れだったと思います。3年後の1949年には大学に昇格し、神戸市外国語大学が創設されました。

―〝行動する国際人〟育成に込められた思いは？

船山　これはいつの頃からか自然発生的に生まれた言葉です。本学学生の印象としてよくいわれるのが「おとなしい」「まじめ」「非常によく勉強して優秀」等々、とても良い評価ですが、国際社会では「控えめ」になってしまう。そこで一見おとなしそうでも「潜在的に行動する力をもっています」「行動します！」と鼓舞したいという思いが込められています。

―外大で学ぶ外国語とは？

船山　学ぶことの基本は国際理解、言葉はそのために必須です。言語や文化そのものに興味をもち研究するのも面白い課題ですが、外国語大学としての社会的役割を考えると、日本語以外の言語を使い諸外国とコミュニケーションを取るに当たって支えとなる外国語を学ぶことが出発点になると思います。

―久元市長から学生たちへの思いは？

久元　困難な時代に設立され

船山 仲他（ふなやま ちゅうた）

公立大学法人 神戸市外国語大学 理事長・学長

1950年、大阪府生まれ。大阪外国語大学外国語学部ロシア語学科卒業。京都大学大学院文学研究科言語学専攻博士課程単位取得満期退学。京都工芸繊維大学助教授、大阪府立大学教授、神戸市外国語大学教授などを経て、2011年に学長に就任。専門は言語学、通訳理論で、2010年～2013年日本通訳翻訳学会の会長を務めた

1946年に設立された神戸市立外事専門学校

外事専門学校時代の大開校舎

グランドが整備され学びの環境が整った

1949年、大学昇格を果たす。写真は楠ケ丘校舎

大学昇格への声をあげる学生たち